

## 平成 27 年度 長野県トレセンスタッフミーティング（研修会）が開催されました

2月14日(日) アルウィン会議室、フットボールセンター（松本市サッカー場）において、本年度、各地区、ブロックでトレセン活動に関わるコーチ、スタッフミーティング（研修会）を実施しました。

U-10からU-16までの県選抜スタッフ、U-12の12ブロックトレセンスタッフ・コーチ、U-15の4地区トレセンスタッフ・コーチの約100名が参加しました。

講師は、北信越ナショナルトレセンコーチである飽田氏（県協会技術委員長・ユースダイレクター）が務めました。

午前中の講義では、「2015年度の成果と課題」の報告をU-14トレセン責任者の麻田氏とU-12県選抜チーフコーチの永原氏よりそれぞれ報告がありました。あわせて2016年度トレセン活動についての報告もありました。また、FFP（フットボールフューチャープログラム）にコーチとして参加した中村氏より活動の様子・成果の報告もありました。

飽田氏より、トレセン活動のベクトル合わせとして、長野県育成ビジョンの提示があり、トレセンコーチ・スタッフが「世界基準」を日常の活動に反映させ、「日常を変える」ことへアプローチし、トレセンから発信していくことの重要性が示されました。また、昨今のトレセンや指導者を取り巻く状況から策定されたトレセンコーチ行動規範（案）についての内容確認を行いました。

午後はフットボールセンターに移動し実技を行いました。実技の前半では、まず、飽田氏から、日々のトレーニングにおいて、けがの予防だけでなく、体幹を鍛えるためのコアエクササイズとムーブメントプリパレーションの紹介と実技を行いました。今後トレセンでは、常に実施することが確認されました。その後、U-12・U-14のカテゴリー毎に分けれ、来年度の活動の軸となるトレーニングメニューについて、4地区スタッフによる指導実践で確認しました。セッション終了後、47FAインストラクターがファシリテーターとなり、コーチングやオーガナイズについてディスカッションを行い、ねらいや選手に伝えるポイントについて確認しました。

今年度のトレセン活度も残りわずかとなりましたが、トレセンが「日常を変える」ためのよりよいの刺激の場となるよう、来年度につながる取り組みにしていきます。